



unesco

National Committee
of Global Geoparks

2023年5月24日

日本ジオパーク委員会

「白山手取川」のユネスコ世界ジオパーク新規認定について

2023年5月24日（現地）、フランス・パリにて開催された第216回ユネスコ執行委員会【開催期間 2023年5月10日（水）～24日（水）】において、「白山手取川」がユネスコ世界ジオパークとして認定されましたので、お知らせいたします。

ユネスコ世界ジオパークは、今回18地域が新たに認定され、合計48か国195地域となりました。「白山手取川」は国内で10番目のユネスコ世界ジオパークとなります。

【参考】「白山手取川」のユネスコ世界ジオパークに関するこれまでの経緯

- ・ 2020年（令和2年）6月 ユネスコに申請の意思表示
- ・ 2020年（令和2年）11月 ユネスコに申請書を提出
- ・ 2022年（令和4年）10月 ユネスコ派遣の現地審査員2名による現地審査
- ・ 2022年（令和4年）12月 ユネスコ世界ジオパーク・カOUNシルにおける審議
- ・ 2023年（令和5年）5月 第216回ユネスコ執行委員会における決定

白山手取川ユネスコ世界ジオパークの概要は、次ページのとおり。

問合先：日本ジオパーク委員会事務局（古澤）

電話：03-3219-2990

白山手取川ユネスコ世界ジオパークの概要について

1. 名称

はくさんてどりがわ
白山手取川

2. 構成自治体

はくさん
白山市（1市）

3. 面積

総面積 754.93k m²

4. 特徴

白山手取川ユネスコ世界ジオパークは、世界を代表する中生代白亜紀前期の化石産地であり、東アジアにおいて最初期の古生物学的研究が行われた場所となる。恐竜を含む多種多様な動物化石や植物化石が報告されており、多くの種の生物進化と東アジアの白亜紀の環境を考えるうえで世界的にも重要な地域である。

本地域の最高峰である活火山の白山周辺は、世界的にも最も低緯度に位置する豪雪地帯であり、また、隆起速度の速い地域である。短い手取川における上流から下流までの変化は、激しくかつ高速な日本の地形発達を象徴しており、激しい変動帯である日本列島と日本海側の多雪という自然環境の特徴がよく表れた地形が見られる。

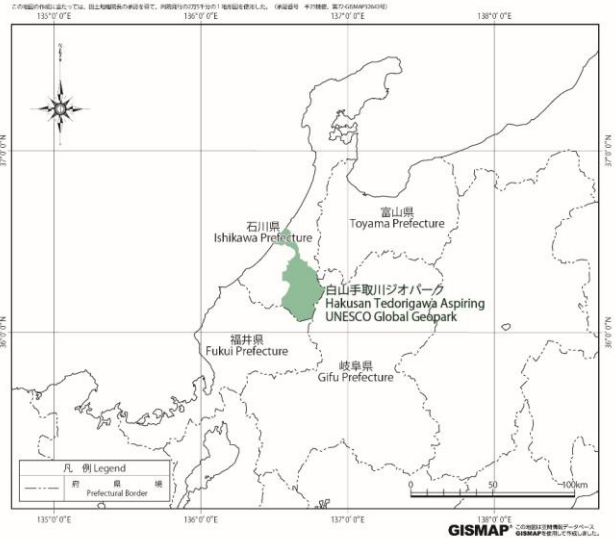
白山は、古来より雪山の象徴として受け止められ、「越のしらね」として文学の世界でも 1000 年近い歴史を持つとともに、全国に白山神社が約 3000 社と広がる白山信仰は、日本有数の山岳信仰である。

白山ユネスコエコパーク（正式名：生物圏保存地域／BR）のほか、白山国立公園などの保護地域にも指定される白山の動植物相は日本国内でも有数となる。

このような特徴のある白山手取川地域は、恵みと大地の成り立ちとのつながりがとても強く感じられる地域で、自然と人との共生を理解しやすい。ジオパーク活動を開始した当初より、これらを活かして地質遺産の保護、教育の推進、ツーリズムの促進を図っており、近年では、SDGs への取り組みとしても、自然資源と人とのつながりへの理解を広めている。

白山手取川ユネスコ世界ジオパークの位置等

位置



エリアおよび地質図

